

〒701-0304 都窪郡早島町早島4066
TEL.086-482-1121

発行日／平成28年1月
発行所／独立行政法人国立病院機構
南岡山医療センター
責任者／宗田 良

そよかぜ

2016年1月 Vol.20

冬号

病院の理念

私たちは
「ゆるぎない信頼、心からの満足」
をしていただける病院を目指します。
人としての尊厳を重視した上で専門医療（国
の定める政策医療）に誇りを持ち、地域の
皆様が安心して心身ともに癒される医療を
受けていただけるよう全力を尽くします。

CONTENTS

院長挨拶 新年を迎えて2
平成27年度神経・筋疾患研修会に参加して3
職場紹介ー薬剤部4
都窪胸部疾患懇話会について5
平成27年度結核診療連携拠点病院研修会5
第1回岡山マラソンに参加して6
クリスマスコンサート6



新年を迎えて

国立病院機構 南岡山医療センター
院長 宗田 良



新年あけましておめでとうございます。

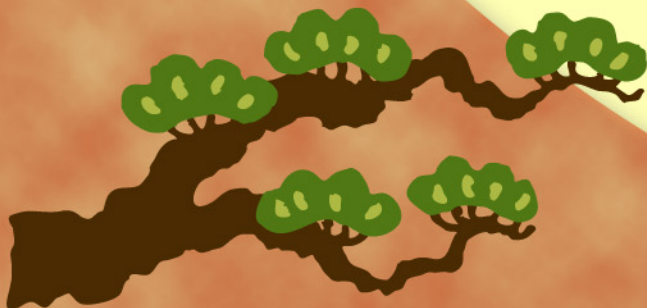
旧年中は外来管理棟の完成、グランドオープン式典と一つの時代を象徴する一年となり、多忙ではありましたが、皆様のご協力のおかげで無事幕を閉じることができました。感謝にたえません。しかし、すでに時代は新しい方向へ動きつつあり、医療・福祉も大きく変化せざるを得ない状況となってきたように思われます。少子高齢化が現実の問題となり、日本の財政状況は、医療・福祉にかかる費用を抑制せざるを得ないようです。これを受けて、診療報酬は総額でマイナス改定となりました。地域医療計画も来年度中には一定の変革の実を上げることを求められるでしょうから、空床となったままの病床は、あっという間に削減を求められる事と思います。

今まで医療の枠で行われていた事が、次々と単価の安い福祉へと移されています。慢性期病床、外来での維持期リハビリは典型だと思われます。医療から出発した福祉を事業としてもつ当院もこの動きに注意を払っておかなくてはなりません。急性期医療もさらに効率化を求められるようになるとは思いますが、我々の得意とする、患者さんと長い付き合いの中での急性期である事を大切にしたいと思ひます。

さらに、呼吸器、重心、神経筋と特徴的な医療をもつ当院は、地域に対して働きかける事をあまりしてこなかった歴史があります。しかし、これからは当院ならではの良さをもっとアピールし、地域に認識してもらわなければ選ばれる病院とはならないと思ひます。

これから厳しい病院淘汰の時代に入ったのだと認識して、一人一人の提供する医療、サービスが満足してもらえ事を原点としてやっていきたいと祈念しております。

本年度もどうか宜しくお願い致します。



平成27年度 神経・筋疾患研修会に参加して

2西病棟 看護師長 高岡 佐奈美

平成27年度神経・筋疾患研修会（神経・筋疾患政策医療ネットワーク協議会中国・四国ブロック主催）を10月28日～10月30日、当院において開催しました。私は研修会の主催側のメンバーとして、企画・運営にかかわりました。事前に国立病院機構の関連職種の方にアンケートを実施し、症状緩和・コミュニケーションについての具体的なケア方法、患者さんの意思決定にチームで関わるためのしくみ作りなどを講義内容としました。3日間を通しての参加者は34名で、聴講のみの方も多数出席してくださいました。国立病院機構のみならず近隣施設、地域で活躍されている方々もあり、職種は看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保健師、メディカルソーシャルワーカーと多職種の方が参加されました。

この研修会において参加者・主催者ともに関心を高く持ち、期待を寄せていたのが、神経内科クリニックなんば 院長 難波玲子先生の「神経・筋疾患の在宅ケア～現状と課題～」と国立精神・神経医療研究センター 緩和ケア認定看護師花井亜紀子先生の「神経・筋疾患の緩和ケアについて」でした。講義では患者さんのQOLを支えていく上で在宅療養の可能性と困難さについて、早期で積極的な緩和治療・ケアの重要性についてなど事例を踏まえて教えていただきました。また緩和ケアはチームで関わるのが必須であり、神経・筋疾患患者さんにとって受けたケアはすべて緩和ケアになるのだということを改めて考える機会となりました。



〈難波玲子先生へ研修生より質問〉

研修最終日の「病状に応じた意思決定を多職種で支援するには」というテーマで行ったグループ討議では、病状の進行に伴い様々な自己決定を迫られる患者さんに対応する中での困難さや悩みについて話し合いました。それぞれの現場で患者さんに寄り添うことでの葛藤など同じ思いを共有し、また類似の事例に対し取り組んでいることや成功事例など活発な意見交換となりました。問題を抱えながらも、日々真摯に取り組まれている皆さんの姿勢が伺えました。2時間程度の討議でしたが、全員が真剣に考え、意見を述べ、現場に持ち帰るヒントとなるものを得られたように思います。全体を通し、参加者の方から「内容が充実しており、体系的に学ぶことができました。」「疑問に対するヒントや答えがあり収穫の多い研修であった。」「講義と実践の両方があり理解しやすかった。」「明日からの患者さんへのかかわり方、考え方が変わっていくと思う。」など、さらに討議では「特有の問題、悩みについて他施設、他職種の方も同じように葛藤があるのだとわかり、安心・励みとなった。」「他施設の取り組みを自施設に持ち帰り、伝えていきたい。」などの感想が聞かれ、研修の目的・目標はほぼ達成できたのではないかと感じました。研修後もしばらく研修室にとどまり、講師への質問や参加者同士の意見交換などあちこちで立ち話をする光景が見られました。

神経・筋疾患医療という特殊な分野について、病態の理解、ケア・サポートの実際など全般的に学ぶ機会は少なく、この度の研修企画は興味深く取り組ませていただきました。私自身も神経・筋疾患の患者さんと日々関わる中で、患者さんの声を聴くことにも時間や技術を要し、患者さんがどう生きたいかを支えることの難しさを感じています。患者さんの気持ちに寄り添い、希望を叶えていくために他職種を交えたチームでの関わりは不可欠であり、この度の研修の内容や方法を他職種の講義担当者とともに考え進めていく中で、そして研修会に参加することで改めてそれぞれの職種の役割と相談・協働の意義を理解できたように思います。チーム力を上げるための調整力が、心身ともに厳しい状況下にある患者さんの意思決定を支えることにつながるものと私自身の課題も確認できた研修でした。

研修最終日の「病状に応じた意思決定を多職種で支援するには」というテーマで行ったグループ討議では、病状の進行に伴い様々な自己決定を迫られる患者さんに対応する中での困難さや悩みについて話し合いました。それぞれの現場で患者さんに寄り添うことでの葛藤など同じ思いを共有し、また類似の事例に対し取り組んでいることや成功事例など活発な意見交換となりました。問題を抱えながらも、日々真摯に取り組まれている皆さんの姿勢が伺えました。2時間程度の討議で



〈呼吸リハビリテーションの実技〉

目的：神経・筋疾患政策医療ネットワークの活用、神経・筋疾患に関する最新の専門的知識およびケア・リハビリテーション技術を習得し、神経・筋疾患医療の充実を図る
 目標：1 神経・筋疾患医療の提供についての知識を深めることができる
 2 神経・筋疾患医療に携わる職員間で情報交換の場として活用できる
 対象：神経・筋疾患医療の関係職種
 日程表：次のとおり

日程表

	9	10	11	12	13	14	15	16	17:15
第1日目 10/28 (水)	受付	オリエンテーション 開講式	腎臓小脳変性症とALSについて 第三診療部長・神経内科医長 坂井 研一	昼食	神経・筋疾患の看護について 副看護部長 常久 幸恵	休憩	呼吸リハビリテーションについて 理学療法士 門脇 守男	夕食	摂食嚥下リハビリテーションについて 病食・病下神養看護認定看護師 樋田 史子 兼徳護士 高畑 友里
第2日目 10/29 (木)	呼吸管理 主任臨床工学士 笠井 健一	休憩	神経・筋疾患の心理的サポート 治療管理部長 田邊 康之	昼食	神経・筋疾患の緩和ケアについて 緩和ケア認定看護師 花井 亜紀子	休憩	MSWの動きについて—社会資源を踏まえて— 地域医療連携室長 川端 宏輝 医療社会事業専門員 有友 公	夕食	神経・筋疾患の在宅ケア—現状と課題— 神経内科クリニックなんば院長 難波 玲子
第3日目 10/30 (金)	病棟見学	休憩	コミュニケーション障害への対応 作業療法士長 曾根 弘喜	グループワーク(導入)	昼食	グループワーク全体討議 テーマ「病状に応じた意思決定を多職種で支援するには」	開講式		

職場紹介

薬剤部

私たち薬剤部は、田村部長を始めとした薬剤師8名（治験主任1人含む）と非常勤事務員1名の計9名で組織されています。外来DOTS（外来結核直接服薬確認療法）、呼吸ケアチーム、NST（栄養サポートチーム）、がんケアチームといったチーム医療に薬の専門家として参加しています。病院の特徴でもある、結核医療や吸入指導にも力を入れています。また従来からの入院患者さん個々への服薬指導に加え、全入院患者さんの薬の安全性に目を配る病棟薬剤業務を開始し、一病棟を複数の薬剤師による担当制にて対応しています。



調剤室

この調剤室にて注射薬、錠剤・カプセル・粉薬といった内用薬、点眼薬・貼付剤・軟膏といった外用薬と日夜格闘しています。また、多くの薬を服用している患者さんには、1回に服用する薬をまとめて（一包化）、錠剤の服用が困難な患者さんには粉薬や錠剤を粉砕する等して患者さんが薬を服用しやすいように様々な工夫を行っています。



薬剤部スタッフ

現在、このメンバーで頑張っています。また、著しく進歩する医療環境とチーム医療に対応するため、研修会への積極的参加による薬剤師自身の資質向上や、自己研鑽を日々積んでいます。



粉薬を調合するところです。



無菌室
(抗がん剤調整室)

抗がん剤を安全キャビネット内で無菌的に調製し、衛生的に患者さんの元へ届けています。治療のスケジュールにより休日の調製も行っています。

長期間薬を服用する必要のある結核の外来患者さんに対しては服用後の空シートを確認する等服薬状況を把握し、結核医療に重点を置いた服薬指導を行っています。



外来DOTS
(外来結核直接服薬確認療法)

患者さんが服用しているお薬の効能、効果や服用上の注意点などについて、指導を行っています。また、薬の説明だけでなく、使用方法や飲み合わせに問題はないか、副作用の有無など薬物治療が適切に行なわれているかどうかを確認しています。



吸入指導の様子 (専門外来)

2014年4月より気管支喘息専門外来を開始しており、薬剤師もチームの一員として関わっています。医師の診察時に看護師と共に薬剤師が同席し吸入指導を実施しています。



病棟の服薬指導

都窪胸部疾患懇話会について

年末とは思えないほどのあたたかい日が続く平成27年12月2日に当院で初めて「都窪胸部疾患懇話会」を開催しました。当院では9月、11月、1月の年3回都窪医師会二次読影会を行っており、そこでチェックがかった症例や当院での胸部疾患事例、開業医の先生方からの持ち込み事例をもとに勉強会を行いました。

この懇話会では、都窪医師会のご開業の先生方が11医療機関もご参加いただき、胸部疾患の治療をより充実させると同時に、開業医師及び病院医師が相互に顔が見える関係ができ、また、広く知識の交流を図ることができました。

初めてなこともあり、なれないことばかりでご迷惑をおかけした面もあったかと思いますが、今後も継続して、都窪医師会の地域の医療レベルの向上とより密接な連携が図れるように取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。



平成27年度 結核診療連携拠点病院研修会 (岡山県結核対策研修会)

〈テーマ〉
～結核の診断の遅れをなくすために～

日時 平成28年2月4日(木) 18:30～20:30

会場 岡山コンベンションセンター 1階イベントホール(定員250名)
岡山市北区駅元町14-1 TEL.086-214-1000

主催 国立病院機構 南岡山医療センター・岡山県健康づくり財団附属病院・岡山県

●パネルディスカッション 18:45～20:10

I) 集団感染・院内感染をいかにして防ぐか

座長 国立病院機構 南岡山医療センター
呼吸器・アレルギー内科医長

河田典子

II) 医療・介護施設における健康管理ーIGRAsを中心にー

座長 国立病院機構 南岡山医療センター
臨床研究部長

谷本 安

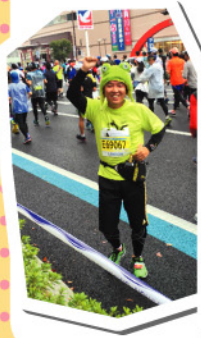
※申し込み・問い合わせは、2月1日(月)までに地域医療連携室086-482-3031にご連絡ください。

第1回 岡山マラソンに参加して

11月8日(日)、第1回岡山マラソンが開催され、南岡山医療センターマラソン部(非公認)より、事務職員3名、地域医療連携室2名の計5名で参加してきました。岡山シティライトスタジアム横をスタートし岡山市役所前、西紅陽台、岡南大橋(高低差17mある最大の難所)、後樂園付近等を通り、シティライトスタジアムがゴールといったコースで、フルマラソン初参加のメンバーもいましたが無事5名そろって完走することができました。完走できたのも、交通規制、ボランティア、大会運営等、市民の協力があったことだと思えます。心より感謝申し上げます。



苦しんだ分、完走できた達成感は今まで味わったことのない感覚でとても良いものがありますが、何より走っている時に声援を下された市民の方々や、天候があまりよくない中、駆けつけてくださったマラソン部のメンバー、大会直前に応援のメッセージを送って下さった方々のありがたみをあらためて実感した大会でした。



そして夜はランナーズハイで自分に酔いしれるだけでは飽き足らずアルコールでさらに酔いしれるため打ち上げへ。疲れきった体に注ぐ1杯目のビールは絶品です。このようにゴールして味わえる感動と自分への称賛(打ち上げ)と一緒に楽しむのが我々南岡山医療センターマラソン部のスタイルです。キャラクターの濃いメンバーが揃っており非常に楽しい部活だと私は思っております。興味がある方はマラソン部へ入部し第2回岡山マラソン等を目標に走ってみませんか？

「クリスマスコンサート」 ～トランペットと弦の調べにのせて～

入院されている患者さんにクリスマスプレゼントとして、12月24日(木)1階ライフスタイルギャラリー(花明りホール)において倉敷アカデミーアンサンブルの皆さんとトランペット奏者の増本辰馬さんによる「クリスマスコンサート～トランペットと弦の調べにのせて～」が開催されました。「アメイジング・グレイス」「クリスマスメドレー」などおなじみの曲が披露され、会場は一気にクリスマスの雰囲気になりました。



お詫びと訂正

2015年11月発行「そよかぜ19号」の「職場紹介ーリハビリテーション科」の中に誤字がありましたので、訂正し、お詫び申し上げます。

誤字：カンファレンス室の中2行目 CJ-ムアプローチ 訂正：チームアプローチ
誤字：Rihabiritation 訂正：Rehabilitation



独立行政法人国立病院機構 南岡山医療センター

〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066
電話(086)482-1121(代表)
F A X (086)482-3883
<http://www.sokayama.jp/>

